



古道を訪ねて ②⑤

巡礼道 (勝尾寺・中山寺) ⑦

箕面駅のホームの下のトンネルをくぐり抜け、住宅街の中を進み、箕面川にかかる「仰箕橋」を渡ります。



▲仰箕橋

現在はコンクリートの丈夫な橋ですが、地元のかたの話によると、昔は幅の狭い木製の橋で、欄干もなかったため、特に夜は川に転落しないように慎重に渡ったそうです。また、上流の箕面川ダムが完成するまでは、川の氾濫により度々流失したということです。橋の上を通る巡礼が、有名な

「箕面の滝」や「瀧安寺」がある箕面山を仰ぎ見たところが「仰箕橋」の名称の由来かも知れません。

橋を渡り左折して、およそ200m進むと右手に石仏が納められたお堂があり、その前に一体の地蔵が、まるで旅を続ける巡礼を見守るように佇んでおり、その横には

「いにしえ能(の) 三十三番 巡礼道 姿かわれど 思い忘るな」の歌碑が建てられています。

地域の字名を併せて「徳尾の巡礼地蔵」と呼ばれるこの地蔵には元禄9(1696)年の建立年が刻まれており、年号のある地蔵としては市内最古のもので



▲徳尾の巡礼地蔵

巡礼地蔵を過ぎてすぐに右折しますが、ここから約600mの間は、巡礼道

は府道箕面池田線により消滅してしまいましたが、新稲地区で復活します。白壁作りの民家の間を横切るように進んで行くと、右手の民家の脇に自然石を利用した一基の道標があります。正面の最上部に梵字で観音菩薩を表す(𑖀𑖔𑖪𑖯)を刻み、その下に「右中山道 中山へ二里 池田へ十五」と「元禄四年 九月吉日」の文字、右側に「撰 豊嶋郡新稲村」の文字があります。新稲村の人々が巡礼の安全を観音菩薩に託して建てたと考えられる心温まる道標です。

